

## 株 主 各 位

東京都新宿区下落合一丁目5番22号  
アニコム ホールディングス株式会社  
代表取締役社長 小 森 伸 昭

### 第11回 定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第11回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようご通知申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、平成23年6月23日（木曜日）午後6時までに到着するようご返送くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

#### 記

- |         |  |
|---------|--|
| 1. 日 時  | 平成23年6月24日（金曜日）午後2時  |
| 2. 場 所  | 東京都新宿区下落合一丁目5番22号<br>アリミノビル地下1階 大ホール<br>(末尾の会場ご案内図をご参照ください)  |
| 3. 目的事項 |  |
| 報告事項    | 1. 平成22年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）<br>事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の<br>連結計算書類監査結果報告の件<br>2. 平成22年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）<br>計算書類報告の件 |
| 決議事項    |  |
| 議 案     | 取締役4名選任の件  |

以 上

~~~~~  
◎当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出  
くださいますようお願い申し上げます。

◎株主総会参考書類、事業報告、計算書類及び連結計算書類に修正が生じた場合  
は、直ちに当社ホームページ（<http://www.anicom.co.jp/>）にその内容を掲載  
いたします。

## 《添付書類》

### 平成22年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）事業報告

#### 1. 保険持株会社の現況に関する事項

##### (1) 企業集団の事業の経過及び成果等

当連結会計年度におけるわが国経済は、新興国の景気上昇に伴う輸出の増加や、経済施策による個人消費の喚起等により、緩やかながら回復の動きが見られたものの、年度末に発生した東日本大震災により急速に減速感が広がるとともに、先行きについても不透明な状況となりました。

このような状況のなか、当社グループの中核子会社であるアニコム損害保険株式会社は、ペット保険募集の主力チャネルとなるペットショップ代理店において、「商品勉強会」「販売スキル向上研修」等を継続的に実施するなど、募集力の向上に注力しました。また、新規に開店するペットショップには、開店前から積極的にアプローチをし、保険代理店の設置に向けた営業活動を推進してまいりました。一方で、既にペットを飼われている方々からの加入を促進すべく、銀行・信用金庫等の金融機関代理店やカーディーラー代理店網のさらなる拡充を図るとともに、ペット保険の認知度を高めるためのイベントを企画・実施するなど、募集チャネルの拡大と募集力の強化に努めました。さらに、多くのお客様からのご要望にお応えし、ペット保険市場の拡大スピードを加速させるべく、平成22年10月から、入院・通院の年間限度日数を撤廃し、補償割合については90%・70%・50%から選択を可能にするなど、新たな補償を開始いたしました。その結果として、当年度末の保有契約数は340,628件（前年度末から49,861件の増加・同17.1%増）となりました。

そのほか、動物病院向けのレセプトシステムの開発・販売を手がけるアニコム パフェ株式会社は、同システムを動物病院内における複数の機器で利用を可能にする「院内ネットワークバージョン（LAN版）」の販売を促進するとともに、動物病院向けに「犬の歯磨き教室導入セミナー」を、獣医師・看護師向けに「体験型コミュニケーション講座」を提供するなど、動物病院支援事業の拡大に努めました。また、生命保険の募集及び損害保険代理業を主な事業とするアニコム フロンティア株式会社は、動物病院の経営者に各種保険を積極的に提案するなど、事業拡大に取り組みました。

以上の施策を行った結果、当社グループにおける連結成績は次のとおりとなりました。

保険引受収益10,858百万円、資産運用収益94百万円などを合計した経常収益は、11,107百万円(前連結会計年度比20.5%増)となりました。一方、保険引受費用7,146百万円、営業費及び一般管理費3,312百万円等を合計した経常費用は10,764百万円(同20.6%増)となり、経常利益は342百万円(同17.5%増)となりました。これに、特別損失、法人税及び住民税などを加減した当期純利益は421百万円(同21.8%増)となりました。

#### (対処すべき課題)

当社グループは、創業以来、わが国におけるペット保険市場の創造に努めてまいりましたが、ペット保険の先進国である英国等と比較すると、認知度・契約割合は依然として低く、成長途上の市場であります。人間の健康保険制度が社会的なインフラとして確立されておりますわが国において、診療費のうち自己負担分の支払いにより手続きが完結する当社グループのペット保険が、いわば、どうぶつ健康保険制度として社会に広く認知・活用されるよう、今後とも取り組んでまいります。そのため、対処すべき課題として以下を認識しております。

#### ① ペット保険代理店網の拡充

ペットの販売と同時に保険募集を行うことができるペットショップ代理店網のさらなる拡充を図るほか、既にペットを飼われている方々からの加入を促進すべく、新たなチャネルの開拓と確立が必要であると認識しており、地方銀行、信用金庫を中心としたエリア特化の金融機関販売網の構築や、保険販売力のあるカーディーラー代理店の開拓、企業内保険代理店との提携による職域への展開、他の生損保会社との業務提携を視野に入れた大規模な販売チャネルの拡充等に取り組んでまいります。

#### ② 代理店における業務品質の向上

ペットショップ代理店においては、商品内容をより深く理解するための商品勉強会や、保険募集人の保険販売スキルを強化することを目的とした販売スキル向上研修等を実施し、業務品質の向上を図ってまいります。一般代理店に対しましては、ペット保険の必要性をわかりやすく説明するセールス・トークの強化や、補償内容、商品メリット、保険金請求方法等を簡明に記載したパンフレットの提供を行い、契約募集力の強化につなげる所存であります。

### ③ ペット保険の認知度向上

ペット保険の認知度は、年々向上しつつあると認識しておりますが、その具体的な補償内容や、必要性・利便性等は十分に認知されておられません。幅広くペット保険を知って頂くために、契約者へのアンケート結果を基にした「ニュースリリース」の定期的な配信や、保険金支払い実績やペットにかかわる様々なデータをまとめた『家庭どうぶつ白書』を毎年発刊するなど、積極的なグループの広報活動やイベントの企画・協賛を行い、ペット保険の認知度を向上させる施策を幅広く実行してまいります。

### ④ 業務効率の継続的改善

ペット保険は、他の損害保険と比べて保険金請求頻度が高いため、請求内容の調査と保険金支払いに係る業務効率の向上が必須であると認識しており、業務システムの不断の改善と業務担当者への教育・研修による効率化を進めております。また契約者自身がパソコンや携帯電話を使用して契約情報等を入力する「契約者個人専用WEBサイト」の機能の拡充等を通じて、業務効率の継続的改善を推進してまいります。

### ⑤ 既存契約の継続率の維持・向上

契約者満足度の向上を目的として、健康・しつけ相談サービスの無償提供や、契約者の口コミや情報交換がWEBで行えるコミュニケーションサイト（どうぶつと、もっと家族になる情報交換サイト「しっぽの学校」）を運営しております。また、ご契約の方全員に、迷子札としてもご利用頂ける「Famica（ファミカ）」を、契約どうぶつのお誕生日には個別に「バースデーカード」を贈るなど、ONEtoONEサービスを徹底して行うことにより、継続率のさらなる向上に取り組みます。

### ⑥ 財務基盤の強化

事業拡大に伴い、アニコム損害保険株式会社の適切なソルベンシー・マージン比率を確保すべく、資本の充実が求められます。保険契約の増加に合わせ、ソルベンシー・マージン比率算出における保険リスクも増加することから、事業拡大期においては、ソルベンシー・マージン比率は伸び悩む傾向になることも考えられます。平成22年3月、当社株式上市時の調達資金によりアニコム損害保険株式会社の増資を実施しておりますが、今後とも財務基盤の強化に努力してまいります。

⑦ 経常利益及び当期純利益の確保

当社グループにおいては、中核事業である損害保険事業（ペット保険）における収益基盤を強化することにより、連結ベースでの経常利益及び当期純利益を着実に確保していくことが必須であると認識しております。そのために、同事業における営業活動を強化して収入保険料の拡大を図る一方、継続的に経費構造を見直すことで、利益の確保に向けて取り組みます。なお、当社単体の利益剰余金については、アニコム損害保険株式会社をはじめとした事業子会社からの受取配当金等により累積損失を解消し、早期に配当を行うことを目指して、子会社の指導・支援に取り組んでまいります。

⑧ 保険商品の補償範囲拡大に伴う収益構造の安定化

顧客ニーズを反映させたペット保険商品の提供を通じて、市場拡大のスピードを加速させるべく、平成22年10月よりペット保険商品の補償範囲の拡充を行いました。これにより、新規契約の増加、継続率の改善及び保険料単価の上昇が期待される一方、損害率の上昇が見られるため、収入保険料の増加に伴う固定費率の低下、業務効率の向上に伴う事業費率の低下により、収益構造の改善を図ってまいります。

⑨ ペット関連ビジネス市場における新規事業の立ち上げ

当社グループはペット保険単種目の収益に大きく依存しております。集中化・差別化戦略の徹底が求められる一方で、市場の変化、法改正等の外部環境の変化による影響を受けることも想定されるため、事業分野の拡充を具現化し、新たな収益源の確保が課題であると認識しております。これらの状況に対応するため、動物病院支援事業の拡大を図るとともに、ペットの高齢化を背景に「葬送・メモリアルサービス」を開始するなど、ペット保険とのシナジーを発揮できる事業のさらなる強化に取り組んでまいります。

(注) 本事業報告（以下の諸表を含む）における金額及び株数等は記載単位未満を切り捨てて表示し、増減率等の比率は小数第2位を四捨五入し小数第1位まで表示しております。

## (2) 企業集団及び当社の財産及び損益の状況の推移

### ① 当社の財産及び損益の状況の推移

| 区 分           | 平成19年度        | 平成20年度       | 平成21年度       | 平成22年度<br>(当期) |
|---------------|---------------|--------------|--------------|----------------|
| 売上高           | 百万円<br>—      | 百万円<br>—     | 百万円<br>—     | 百万円<br>—       |
| 営業収益          | 495           | 352          | 534          | 568            |
| 受取配当金         | —             | —            | —            | —              |
| 保険業を営む子会社等    | —             | —            | —            | —              |
| その他の子会社等      | —             | —            | —            | —              |
| 当期純利益         | 19            | 7            | 113          | 186            |
| 1株当たり当期純利益    | 1,850円<br>29銭 | 751円<br>83銭  | 35円<br>04銭   | 45円<br>65銭     |
| 総資産           | 百万円<br>5,966  | 百万円<br>5,912 | 百万円<br>7,641 | 百万円<br>7,868   |
| 保険業を営む子会社等株式等 | 4,114         | 5,314        | 5,814        | 5,814          |
| その他の子会社等株式等   | 20            | 20           | 20           | 20             |

(注) 「1株当たり当期純利益」は期中平均発行済株式数により算出しております。なお、当社は平成21年5月11日開催の取締役会決議に基づき、平成21年6月25日付で1株につき20株の分割を行っております。当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合の1株当たり当期純利益の推移を参考までに掲げると以下のとおりとなります。

| 区 分        | 平成19年度    | 平成20年度    | 平成21年度     | 平成22年度     |
|------------|-----------|-----------|------------|------------|
| 1株当たり当期純利益 | 9円<br>25銭 | 3円<br>76銭 | 35円<br>04銭 | 45円<br>65銭 |

### ② 企業集団の財産及び損益の状況の推移

| 区 分                  | 平成19年度       | 平成20年度        | 平成21年度       | 平成22年度<br>(当期) |
|----------------------|--------------|---------------|--------------|----------------|
| 連結経常収益               | 百万円<br>7,267 | 百万円<br>10,799 | 百万円<br>9,215 | 百万円<br>11,107  |
| 連結経常利益または連結経常損失(△)   | 199          | △66           | 291          | 342            |
| 連結当期純利益または連結当期純損失(△) | 177          | △141          | 346          | 421            |
| 連結純資産額               | 4,284        | 4,181         | 6,129        | 6,588          |
| 連結総資産                | 7,748        | 8,684         | 11,594       | 13,382         |

### (3) 事務所の状況（平成23年3月31日現在）

|      |        |           |
|------|--------|-----------|
| 事務所名 | 所在地    | 設置年月日     |
| 本社   | 東京都新宿区 | 平成12年7月5日 |

(注) 会社設立の年月日を設置年月日として記載しております。

### (4) 使用人の状況（平成23年3月31日現在）

#### ① 当社の使用人の状況

| 区分  | 前期末 | 当期末 | 当期増減(△) | 当期末現在 |        |        |
|-----|-----|-----|---------|-------|--------|--------|
|     |     |     |         | 平均年齢  | 平均勤続年数 | 平均給与月額 |
| 使用人 | 9名  | 11名 | 2名      | 33.8歳 | 4.4年   | 501千円  |

- (注) 1. 使用人は就業人員（社外からの出向者を含む）であり、兼務役員、社外への出向者及びパートタイマー等の臨時使用人は含んでおりません。
2. 平均年齢及び平均勤続年数は小数第2位を切り捨てて小数第1位まで表示しております。
3. 平均勤続年数はアニコムグループ子会社等における在籍期間を通算しております。
4. 平均給与月額は基準外給与を含んでおります。

#### ② 企業集団の使用人の状況

| 区分  | 前期末  | 当期末  | 当期増減(△) |
|-----|------|------|---------|
| 使用人 | 214名 | 234名 | 20名     |

- (注) 1. 使用人は就業人員（グループ外からの出向者を含む）であり、兼務役員、グループ外への出向者及びパートタイマー等の臨時使用人は含んでおりません。
2. 当社グループにおいては、損害保険事業の経常収益、経常利益及び資産の金額が、全セグメントのそれぞれの合計額に占める割合がいずれも90%超であるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

### (5) 主要な借入先の状況（平成23年3月31日現在）

#### ① 当社の主要な借入先の状況

該当事項はありません。

#### ② 連結会社の主要な借入先の状況

該当事項はありません。

(6) 資金調達の状況

調達金額に重要性がないため、記載を省略しております。

(7) 設備投資の状況

① 設備投資の総額

|         |       |
|---------|-------|
| 設備投資の総額 | 16百万円 |
|---------|-------|

② 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

(8) 重要な親会社及び子会社等の状況（平成23年3月31日現在）

① 親会社の状況

該当事項はありません。

② 子会社等の状況

| 会社名            | 所在地    | 主要な事業内容             | 設立年月日       | 資本金      | 当社が有する子会社等の議決権比率 | 備考 |
|----------------|--------|---------------------|-------------|----------|------------------|----|
| アニコム損害保険株式会社   | 東京都新宿区 | ペット保険事業             | 平成18年1月26日  | 4,350百万円 | 100%             | —  |
| アニコムパフェ株式会社    | 東京都新宿区 | 動物病院支援事業            | 平成16年12月24日 | 10百万円    | 100%             | —  |
| アニコムフロンティア株式会社 | 東京都新宿区 | ペット保険業務の受託事業・保険代理店業 | 平成17年2月25日  | 10百万円    | 100%             | —  |

(注) anicom（動物健康促進クラブ）は平成21年4月2日に特定保険業を廃業し、平成22年3月23日に任意組合を解散し清算手続きに移行しましたので本表には記載していません。

(9) 事業の譲渡・譲受け等の状況

該当事項はありません。

(10) その他持株会社の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。



## 2. 会社役員に関する事項

### (1) 会社役員 の 状 況 (平成23年3月31日現在)

| 氏 名   | 地位及び担当           | 重 要 な 兼 職                                                     | その他 |
|-------|------------------|---------------------------------------------------------------|-----|
| 小森伸昭  | 代表取締役            | アニコム損害保険株式会社 代表取締役<br>アニコム パフェ株式会社 取締役<br>アニコム フロンティア株式会社 取締役 | —   |
| 百瀬由美子 | 常務取締役            | アニコム損害保険株式会社 常務取締役                                            | —   |
| 江口耕三  | 取締役              | アニコム フロンティア株式会社 取締役                                           | —   |
| 岩崎俊男  | 取締役<br>(社外取締役)   | セルフリースサイエンス株式会社 取締役(社外取締役)<br>アーキタイプ株式会社 取締役(社外取締役)           | —   |
| 猪俣吉彦  | 常勤監査役<br>(社外監査役) | アニコム パフェ株式会社 監査役<br>アニコム フロンティア株式会社 監査役                       | —   |
| 岩本康一郎 | 監査役<br>(社外監査役)   | ライツ法律特許事務所 弁護士<br>アニコム損害保険株式会社 監査役(社外監査役)                     | —   |
| 塩川伸明  | 監査役<br>(社外監査役)   | アニコム損害保険株式会社 監査役(社外監査役)                                       | —   |
| 植田 稔  | 監査役              | —                                                             | —   |

- (注) 1. 社外取締役または社外監査役との記載は、会社法施行規則第2条第3項第5号に定める社外役員であることを示しております。
2. 当社は、取締役岩崎俊男氏並びに監査役猪俣吉彦氏、岩本康一郎氏及び塩川伸明氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
3. 監査役植田稔氏は、損害保険会社における長年の経験、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
4. 「担当」につきましては注5の表に記載しております。
5. 当社は執行役員制度を導入しており、平成23年3月31日現在の執行役員の構成及び担当は以下のとおりです。

| 氏 名   | 地 位    | 担 当                   |
|-------|--------|-----------------------|
| 小森伸昭  | 社長執行役員 | 総括                    |
| 百瀬由美子 | 執行役員   | 人事管理部、コンプライアンス・リスク管理部 |
| 江口耕三  | 執行役員   | 経営企画部                 |
| 大久保弘二 | 執行役員   | 財務経理部                 |
| 伊藤幹夫  | 執行役員   | 内部統制・開示               |
| 須田一夫  | 執行役員   | 内部監査室                 |

## (2) 会社役員に対する報酬等

| 区 分 | 支給人数 | 報酬等   | 定款又は株主総会で定められた報酬限度額 |
|-----|------|-------|---------------------|
| 取締役 | 4名   | 50百万円 | 200百万円              |
| 監査役 | 4名   | 25百万円 | 50百万円               |

- (注) 1. 会社役員に対する報酬等の支給対象者は、取締役4名、監査役4名であります。
2. 取締役のうち2名は子会社であるアニコム損害保険株式会社の業務執行取締役を兼務しております。これらの取締役に対しては上記とは別に当該子会社から合計44百万円の報酬が支払われております。
3. 使用人兼務取締役の使用人としての給与その他の職務遂行の対価10百万円を含みません。

## 3. 社外役員に関する事項

### (1) 社外役員の兼任その他の状況（平成23年3月31日現在）

| 氏 名                      | 兼 任 そ の 他 の 状 況                                      |
|--------------------------|------------------------------------------------------|
| 岩 崎 俊 男<br>(社 外 取 締 役)   | セルフリーサイエンス株式会社 取締役 (社外取締役)<br>アーキタイプ株式会社 取締役 (社外取締役) |
| 猪 俣 吉 彦<br>(社 外 監 査 役)   | アニコム パフェ株式会社 監査役<br>アニコム フロンティア株式会社 監査役              |
| 岩 本 康 一 郎<br>(社 外 監 査 役) | ライツ法律特許事務所 弁護士<br>アニコム損害保険株式会社 監査役 (社外監査役)           |
| 塩 川 伸 明<br>(社 外 監 査 役)   | アニコム損害保険株式会社 監査役 (社外監査役)                             |

- (注) 1. 社外取締役または社外監査役との記載は、会社法施行規則第2条第3項第5号に定める社外役員であることを示しております。
2. アニコム損害保険株式会社、アニコム パフェ株式会社及びアニコム フロンティア株式会社は、当社の完全子会社であります。
3. 当社とセルフリーサイエンス株式会社、アーキタイプ株式会社、ライツ法律特許事務所との間に重要な取引関係はありません。

## (2) 社外役員の主な活動状況

| 氏 名                  | 在任期間      | 取締役会等への出席状況                                | 取締役会等における<br>発言その他の活動状況                                                                                                                      |
|----------------------|-----------|--------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 岩 崎 俊 男<br>(社外取締役)   | 3年<br>9ヶ月 | 当年度に開催した22回の取締役会の全てに出席しました。                | 長年の企業経営を通じて培われた経営の専門家としての見識に基づき、質問、提言等を適宜行うことなどにより、監督機能を果たしております。                                                                            |
| 猪 俣 吉 彦<br>(社外監査役)   | 6年        | 当年度に開催した22回の取締役会の全てに、また22回の監査役会の全てに出席しました。 | 長年の損害保険会社勤務及び企業経営を通じて培われた保険の専門家としての見識に基づき、質問、提言等を適宜行うことなどにより、監査機能を果たしております。<br>また、監査役会において、監査に係る重要事項等を協議したことに加え、代表取締役との意見交換会等に出席し、意見を述べています。 |
| 岩 本 康 一 郎<br>(社外監査役) | 2年<br>7ヶ月 | 当年度に開催した22回の取締役会の全てに、また22回の監査役会の全てに出席しました。 | 弁護士として法律に関する専門家の見識に基づき、質問、提言等を適宜行うことなどにより、監査機能を果たしております。<br>また、監査役会において、監査に係る重要事項等を協議したことに加え、代表取締役との意見交換会等に出席し、意見を述べています。                    |
| 塩 川 伸 明<br>(社外監査役)   | 1年<br>9ヶ月 | 当年度に開催した22回の取締役会の全てに、また22回の監査役会の全てに出席しました。 | 長年の損害保険会社勤務及び企業経営を通じて培われた保険の専門家としての見識に基づき、質問、提言等を適宜行うことなどにより、監査機能を果たしております。<br>また、監査役会において、監査に係る重要事項等を協議したことに加え、代表取締役との意見交換会等に出席し、意見を述べています。 |

### (3) 責任限定契約

| 氏 名                    | 責任限定契約の内容の概要                                                                                          |
|------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 岩 崎 俊 男<br>(社 外 取 締 役) | 当社は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同氏と同法第423条第1項の責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく責任限度額は、会社法第425条第1項に定める「最低責任限度額」であります。 |

### (4) 社外役員に対する報酬等

|           | 保 険 持 株 会 社 か ら<br>受 け て い る 報 酬 等 | 保 険 持 株 会 社 の 親 会 社 等 か ら<br>受 け て い る 報 酬 等 |
|-----------|------------------------------------|----------------------------------------------|
| 報 酬 等 合 計 | 23百万円                              | —                                            |

(注) 社外役員に対する報酬等の支給対象者は、取締役1名、監査役3名であります。

### (5) 社外役員の意見

該当事項はありません。

#### 4. 株式に関する事項

##### (1) 株式数（平成23年3月31日現在）

|          |      |          |
|----------|------|----------|
| 発行可能株式総数 | 普通株式 | 12,000千株 |
| 発行済株式の総数 | 普通株式 | 4,113千株  |

##### (2) 当年度末株主数

|      |        |
|------|--------|
| 普通株式 | 1,225名 |
|------|--------|

##### (3) 大株主（平成23年3月31日現在）

| 株主の氏名又は名称                                                       | 当社への出資状況     |             |
|-----------------------------------------------------------------|--------------|-------------|
|                                                                 | 持株数等<br>(千株) | 持株比率<br>(%) |
| 小 森 伸 昭                                                         | 447          | 10.9        |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)                                         | 421          | 10.2        |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)                                       | 410          | 10.0        |
| エス・ビー・アイ全異連事業創造ファンド<br>投資事業有限責任組合 無限責任組合員<br>ウイルキャピタルマネジメント株式会社 | 270          | 6.6         |
| ジャフコV1-B号投資事業有限責任組合<br>無限責任組合員 株式会社ジャフコ                         | 191          | 4.6         |
| 野村信託銀行株式会社(信託口)                                                 | 169          | 4.1         |
| C B C 株 式 会 社                                                   | 166          | 4.1         |
| ジャフコV1-A号投資事業有限責任組合<br>無限責任組合員 株式会社ジャフコ                         | 114          | 2.8         |
| アニコム ホールディングス取引先持株会                                             | 106          | 2.6         |
| アニコム ホールディングス従業員持株会                                             | 105          | 2.6         |

## 5. 新株予約権等に関する事項

### (1) 事業年度の末日において保険持株会社の役員が有している当該保険持株会社の新株予約権等

|                    | 新株予約権等の内容の概要           |                              |        |          | 新株予約権等を有する者の数 |
|--------------------|------------------------|------------------------------|--------|----------|---------------|
|                    | 回数<br>(行使価額)           | 行使期間                         | 個数     | 株数       |               |
| 取締役役員<br>(社外役員を除く) | 第1回<br>新株予約権<br>(10万円) | 平成17年4月1日から<br>平成25年3月10日まで  | 66個    | 13,200株  | 1名            |
|                    | 第2回<br>新株予約権<br>(15万円) | 平成19年4月30日から<br>平成27年3月31日まで | 1,683個 | 336,600株 | 1名            |
|                    | 第3回<br>新株予約権<br>(15万円) | 平成19年4月30日から<br>平成27年3月31日まで | 25個    | 5,000株   | 1名            |
|                    | 第4回<br>新株予約権<br>(80万円) | 平成22年9月1日から<br>平成30年8月30日まで  | 45個    | 9,000株   | 3名            |
| 社外取締役              | 第4回<br>新株予約権<br>(80万円) | 平成22年9月1日から<br>平成30年8月30日まで  | 5個     | 1,000株   | 1名            |
| 監査役                | 第3回<br>新株予約権<br>(15万円) | 平成19年4月30日から<br>平成27年3月31日まで | 4個     | 800株     | 2名            |
|                    | 第4回<br>新株予約権<br>(80万円) | 平成22年9月1日から<br>平成30年8月30日まで  | 15個    | 3,000株   | 3名            |

### (2) 事業年度中に使用人等に交付した当該保険持株会社の新株予約権等 該当事項はありません。

## 6. 会計監査人に関する事項

### (1) 会計監査人の状況

| 氏名又は名称                                          | 当該事業年度に係る報酬等 | その他   |
|-------------------------------------------------|--------------|-------|
| 新日本有限責任監査法人<br>指定有限責任社員 小澤 裕治<br>指定有限責任社員 石井 広幸 | 190万円        | 200万円 |

- (注) 1. 当社は会計監査人に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務である「国際会計基準の適用に伴う影響度調査等に関するコンサルティング業務」を依頼しており、その報酬を「その他」に記載しております。
2. 当社及び子法人等が支払うべき会計監査人に対する金銭その他の財産上の利益の合計額は270万円です。

### (2) 責任限定契約

該当事項はありません。

### (3) 会計監査人に関するその他の事項

会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

当社は、会計監査人が会社法第340条第1項各号のいずれかに該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、監査役会が会計監査人を解任いたします。

また、上記のほか、会計監査人の職務遂行の適切性などを勘案して、必要であると認められる場合、取締役会は、監査役会の同意を得て、または監査役会の請求により、会計監査人の解任または不再任を株主総会に提案いたします。

## 7. 財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

特に定めておりません。

## 8. 業務の適正を確保するための体制

当社は、株式会社の業務の適正を確保するために必要な体制の整備について、取締役会において決議しています。その内容は以下のとおりです。

(1) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款等に適合することを確保するための体制

- ① 当社は、グループの取締役及び使用人（以下、役職員と言う）が遵守すべき基準として「グループ倫理規範」を定め、日常活動における判断・行動に際しては、コンプライアンスを最優先するよう周知徹底を図る。
- ② 当社は、グループの法令等遵守の徹底を図るため、グループの「コンプライアンス基本方針」、「コンプライアンスマニュアル」等を制定し、以下のとおり、事業活動においてコンプライアンスを基本とする姿勢をグループの全役職員に対して周知徹底するとともに、体制の強化に努める。
  - (a) 当社は、定期的に開催する「グループコンプライアンス・リスク管理委員会」において「グループコンプライアンス基本方針」の遵守状況等を把握・チェックし、その結果を取締役に報告する。また、「コンプライアンスプログラム」を毎期策定し、その実行を通じ、コンプライアンス遵守態勢の充実を図る。
  - (b) 当社は、グループの役職員がコンプライアンス上の疑義を発見した場合には、職制を通じた報告ルート以外に、グループ社内外のホットライン（内部通報制度）を活用できる体制を整備する。
- ③ 当社は、グループの「顧客保護等管理基本方針」を定め、お客様の資産や情報及び正当な権利を保護する体制を整備する。
- ④ 当社は、グループの「情報セキュリティ管理基本方針」を定め、情報資産の保護・管理を徹底する情報セキュリティ管理体制を整備する。
- ⑤ 当社は、グループの「反社会的勢力対応の基本方針」を定め、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力との関係を遮断することに努め、公共の信頼を維持し健全な企業経営を実現するための対応態勢を整備する。
- ⑥ 当社は、被監査部門から独立した内部監査部門を設置し、グループの「内部監査基本方針」を定め、当社及びグループ各社におけるコンプライアンス・リスク管理態勢をはじめ、内部管理態勢の適切性、有効性を監査する体制を整備する。

(2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

当社は、グループの「情報セキュリティ管理基本方針」及び「文書管理規程」の中で、取締役の職務執行に係る情報をはじめ各種の情報、文書、議事録等の取扱いルールを定め、これらを適切に保存・管理する体制を整備する。



(3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ①当社は、グループの事業運営上のリスク管理について、グループの「リスク管理方針」及び「統合的リスク管理方針」を定め、以下のとおりリスク管理態勢を整備する。
  - (a) リスク管理の統括部署として、コンプライアンス・リスク管理部を設置する。
  - (b) 定期的に開催する「グループコンプライアンス・リスク管理委員会」において、態勢整備の進捗状況や有効性について検討し、その結果を取締役会に報告する。
  - (c) リスク管理にあたっては、リスクカテゴリーごとに分類して、特定・評価・制御・緊急事態対応プランの策定及びモニタリング・報告のプロセスを構築する。
- ②当社は、グループの「危機管理方針」を定め、緊急事態に際してグループ各社が被る損害を極小化し、迅速に通常業務へ復旧するための危機管理体制を整備する。

(4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ①取締役会は、「取締役会規則」及び「職務責任権限規程」を定め、重要事項の決定基準、取締役の職務分掌、権限範囲等を明らかにするとともに、効率的に業務が遂行されるように組織機構を整備する。
- ②取締役会は、グループ中期経営計画及び年度計画を策定し、取締役は達成状況の確認を通じて所管業務の執行につき多面的な分析・施策の検討を行い、取締役会等に報告する。
- ③取締役、執行役員等をメンバーとする経営会議を設置して、経営上の重要事項について、協議・報告をする。
- ④迅速な意思決定と適切な執行が行われるよう、執行役員を選任して特定業務を所管させる。

(5) 財務報告の適正性を確保するための体制

当社は、財務報告に係る内部統制の整備・運用・評価に関する基本的事項を定めた「アニコムグループ内部統制基本方針」に基づき、財務報告の適正性を確保するための体制、その他法令等に定める情報開示について適切な開示が行われるための体制を整備する。

(6) 当社及びその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- ①当社は、直接出資するグループ子会社との間で経営管理契約を締結し、同契約に基づき経営管理を行う。
- ②当社は、グループ子会社に対して、当社が策定するグループの基本方針等の遵守を求めるとともに、グループ子会社の特定事項について、当社の承認事項又は報告事項とするなど、経営管理体制を整備する。
- ③当社は、グループ全体の経営管理・業務の適正性確保及びグループ内取引・業務提携の管理に関する「関係会社経営管理基本方針」を定め、同基本方針に基づきグループ子会社の経営管理を実施する。

(7) 監査役監査に関する体制

- ①監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

当社は、監査役の監査業務を補助する専任の使用人（以下、補助使用人と言う）を配置するとともに、監査役会の運営に関する事務業務を担う監査役会事務局を設置する。

- ②補助使用人の取締役からの独立性に関する事項

「監査役会規則」に基づき、補助使用人の人事異動、考課、表彰・賞罰等については常勤監査役の同意を得ることとする。また補助使用人は、その職務の執行に関して、監査役の指揮命令のみに服することとする。

- ③取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他監査役への報告に関する事項

(a) 取締役会、経営会議等において、取締役から業務の執行状況について報告を受け、また監査役から取締役への意見開示が適時行われる体制とする。また、代表取締役との定期的な会合として経営審議会を開催し、情報の共有と意見の交換を行う。

(b) 監査役は、コンプライアンスやリスク管理をはじめとする重要事項については、内部監査室、コンプライアンス・リスク管理部、経営企画部等から、日常的・継続的に報告を求めることとする。

- ④その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

(a) 子会社を含む、各部署の責任者あるいは担当者は、監査役の求めに応じて業務執行に関する報告を行う。

(b) 監査役は、子会社監査役に対して子会社に関する重要事項の報告を求めるとともに、子会社監査役との連携を密にし、効率的な監査を行う。

## 9. 会計参与に関する事項

該当事項はありません。

## 10. その他

記載すべき事項はありません。

## 平成22年度（平成23年3月31日現在）連結貸借対照表

（単位：百万円）

| 科 目           | 金 額    | 科 目          | 金 額    |
|---------------|--------|--------------|--------|
| （資 産 の 部）     |        | （負 債 の 部）    |        |
| 現金及び預貯金       | 3,682  | 保険契約準備金      | 5,920  |
| 有価証券          | 7,065  | 支払備金         | 653    |
| 有形固定資産        | 96     | 責任準備金        | 5,267  |
| 建物            | 34     | その他負債        | 824    |
| リース資産         | 7      | 未払金          | 234    |
| その他の有形固定資産    | 54     | 仮受金          | 432    |
| 無形固定資産        | 374    | その他の負債       | 157    |
| ソフトウェア        | 125    | 賞与引当金        | 46     |
| ソフトウェア仮勘定     | 246    | 特別法上の準備金     | 2      |
| リース資産         | 2      | 価格変動準備金      | 2      |
| その他資産         | 1,975  | 負債の部合計       | 6,793  |
| 未収金           | 575    | （純資産の部）      |        |
| 未収保険料         | 63     | 株主資本         | 6,569  |
| 保険業法第113条繰延資産 | 969    | 資本金          | 4,178  |
| 開業費           | 179    | 資本剰余金        | 4,068  |
| その他の資産        | 186    | 利益剰余金        | △1,677 |
| 繰延税金資産        | 187    | 自己株式         | △0     |
|               |        | その他の包括利益累計額  | 18     |
|               |        | その他有価証券評価差額金 | 18     |
|               |        | 純資産の部合計      | 6,588  |
| 資産の部合計        | 13,382 | 負債及び純資産の部合計  | 13,382 |

# 平成22年度（平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで）連結損益計算書

（単位：百万円）

| 科 目                 | 金 額    |
|---------------------|--------|
| 経常収益                | 11,107 |
| 保険引受収益              | 10,858 |
| 正味収入保険料             | 10,858 |
| 資産運用収益              | 94     |
| 利息及び配当金収入           | 78     |
| 有価証券売却益             | 15     |
| その他の経常収益            | 154    |
| その他の経常収益            | 154    |
| 経常費用                | 10,764 |
| 保険引受費用              | 7,146  |
| 正味支払保険金             | 4,829  |
| 損害調査費               | 392    |
| 諸手数料及び集金費           | 629    |
| 支払備入金繰入額            | 152    |
| 責任準備金繰入額            | 1,141  |
| 資産運用費用              | 8      |
| 有価証券売却損             | 2      |
| 有価証券評価損             | 6      |
| 営業費及び一般管理費          | 3,312  |
| その他の経常費用            | 296    |
| 支払利息                | 0      |
| 開業費償却               | 102    |
| 保険業法第113条繰延資産償却費    | 161    |
| その他の経常費用            | 32     |
| 経常利益                | 342    |
| 特別損失                | 14     |
| 固定資産処分損             | 4      |
| 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 | 10     |
| 特別法上の準備金繰入額         | 0      |
| 価格変動準備金繰入額          | 0      |
| 税金等調整前当期純利益         | 327    |
| 法人税及び住民税等           | 16     |
| 法人税等調整額             | △110   |
| 法人税等合計              | △93    |
| 少数株主損益調整前当期純利益      | 421    |
| 当期純利益               | 421    |

# 平成22年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）連結株主資本等変動計算書

（単位：百万円）

## 株主資本

### 資本金

|         |       |
|---------|-------|
| 前期末残高   | 4,157 |
| 当期変動額   |       |
| 新株の発行   | 21    |
| 当期変動額合計 | 21    |
| 当期末残高   | 4,178 |

### 資本剰余金

|         |       |
|---------|-------|
| 前期末残高   | 4,046 |
| 当期変動額   |       |
| 新株の発行   | 21    |
| 当期変動額合計 | 21    |
| 当期末残高   | 4,068 |

### 利益剰余金

|         |        |
|---------|--------|
| 前期末残高   | △2,098 |
| 当期変動額   |        |
| 当期純利益   | 421    |
| 当期変動額合計 | 421    |
| 当期末残高   | △1,677 |

### 自己株式

|         |    |
|---------|----|
| 前期末残高   | —  |
| 当期変動額   |    |
| 自己株式の取得 | △0 |
| 当期変動額合計 | △0 |
| 当期末残高   | △0 |

|                         |       |
|-------------------------|-------|
| <b>株主資本合計</b>           |       |
| 前期末残高                   | 6,105 |
| 当期変動額                   |       |
| 新株の発行                   | 43    |
| 当期純利益                   | 421   |
| 自己株式の取得                 | △0    |
| 当期変動額合計                 | 464   |
| 当期末残高                   | 6,569 |
| <b>その他の包括利益累計額</b>      |       |
| <b>    その他有価証券評価差額金</b> |       |
| 前期末残高                   | 24    |
| 当期変動額                   |       |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額）     | △5    |
| 当期変動額合計                 | △5    |
| 当期末残高                   | 18    |
| <b>その他の包括利益累計額合計</b>    |       |
| 前期末残高                   | 24    |
| 当期変動額                   |       |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額）     | △5    |
| 当期変動額合計                 | △5    |
| 当期末残高                   | 18    |
| <b>純資産合計</b>            |       |
| 前期末残高                   | 6,129 |
| 当期変動額                   |       |
| 新株の発行                   | 43    |
| 当期純利益                   | 421   |
| 自己株式の取得                 | △0    |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額）     | △5    |
| 当期変動額合計                 | 458   |
| 当期末残高                   | 6,588 |

## 連結注記表

### <金額の記載>

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

### <連結計算書類作成のための基本となる重要な事項>

#### 1. 連結の範囲に関する事項

- (1) 連結子会社の数 3社

連結子会社の名称

アニコム損害保険株式会社

アニコム パフェ株式会社

アニコム フロンティア株式会社

- (2) 主要な非連結子会社の名称等

非連結子会社は、anicom（動物健康促進クラブ）であります。

非連結子会社については、総資産、経常収益、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等の観点からみて、いずれも企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいため、連結の範囲から除外しております。

#### 2. 持分法の適用に関する事項

非連結子会社anicom（動物健康促進クラブ）については、当期純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性が乏しいため、持分法を適用しておりません。

#### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

#### 4. 会計処理基準に関する事項

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

① 満期保有目的の債券の評価は、移動平均法に基づく償却原価法によっております。

② その他有価証券のうち時価のあるものの評価は、決算日の市場価格等に基づく時価法によっております。

なお、評価差額は全部純資産直入法により処理し、また、売却原価の算定は移動平均法によっております。

③ その他有価証券のうち時価を把握することが極めて困難と認められるものの評価は、移動平均法に基づく原価法によっております。

- (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

当社及び連結子会社は定率法によっております。

② 無形固定資産（リース資産を除く）

当社及び連結子会社は定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。



③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

当社及び連結子会社は、債権の貸倒れによる損失に備えるため、資産の自己査定基準及び償却・引当基準に基づき過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率を債権額に乗じた額を引当てております。

また、全ての債権については、資産の自己査定基準に基づき、各所管部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した内部監査室が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。

② 賞与引当金

当社及び連結子会社は、従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額の当連結会計年度の負担額を計上しております。

③ 価格変動準備金

損害保険子会社は、株式等の価格変動による損失に備えるため、保険業法第115条の規定に基づき計上しております。

(4) 重要な繰延資産の処理方法

開業費

5年間で均等額を償却する方法によっております。

(5) 消費税等の会計処理

当社及び連結子会社の消費税等の会計処理は税抜方式によっております。ただし、損害保険子会社の営業費及び一般管理費等の費用は税込方式によっております。

なお、資産に係る控除対象外消費税等はその他の資産（仮払金）に計上し、5年間で均等償却を行っております。

(6) 保険業法第113条繰延資産の処理方法

保険業法第113条の規定に従い、保険会社の免許取得後発生した事業費のうち損害保険事業の開始に要した費用にあたる金額を保険業法第113条繰延資産として計上しております。

保険業法第113条繰延資産の償却額の計算は、同法の規定に基づきその計上の翌連結会計年度から保険会社の免許取得後10年までの間に均等額を償却することとしております。

## 5. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項の変更

### (1) 資産除去債務に関する会計基準の適用

当連結会計年度より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

この結果、従来の方法によった場合に比べ、経常利益は4百万円減少し、税金等調整前当期純利益は14百万円減少しております。

### (2) 連結貸借対照表関係の表示方法の変更

「前受収益」は前連結会計年度まで区分掲記しておりましたが、金額的重要性が低下したため当連結会計年度より「その他の負債」に含めて計上することといたしました。

なお、当連結会計年度における「前受収益」の金額は59百万円であります。

### (3) 連結損益計算書関係の表示方法の変更

当連結会計年度より、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成21年3月24日 内閣府令第5号）の適用により、「少数株主損益調整前当期純利益」の科目を表示しております。

## 6. 追加情報

当連結会計年度より、「包括利益の表示に関する会計基準」（企業会計基準第25号 平成22年6月30日）を適用しております。

<連結貸借対照表関係>

有形固定資産の減価償却累計額 142百万円

<連結損益計算書関係>

事業費の主な内訳は次のとおりであります。

給与 1,605百万円  
 外注委託費 564百万円  
 代理店手数料等 629百万円

なお、事業費は連結損益計算書における損害調査費、営業費及び一般管理費並びに諸手数料及び集金費の合計であります。

<連結株主資本等変動計算書関係>

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

|               | 前連結会計年度<br>末株式数 (株) | 当連結会計年度<br>増加株式数 (株) | 当連結会計年度<br>減少株式数 (株) | 当連結会計年度<br>末株式数 (株) |
|---------------|---------------------|----------------------|----------------------|---------------------|
| 発行済株式         |                     |                      |                      |                     |
| 普通株式 (注)<br>1 | 4,054,200           | 59,000               | —                    | 4,113,200           |
| 合計            | 4,054,200           | 59,000               | —                    | 4,113,200           |
| 自己株式          |                     |                      |                      |                     |
| 普通株式 (注)<br>2 | —                   | 49                   | —                    | 49                  |
| 合計            | —                   | 49                   | —                    | 49                  |

(注) 1. 普通株式の発行済株式数の増加59,000株は、新株予約権の権利行使による新株の発行による増加であります。

2. 普通株式の自己株式の株式数の増加49株は、単元未満株式の買取による増加であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

| 区 分           | 新株予約権の内訳                | 新株予約権の<br>目的となる<br>株式の種類 | 新株予約権の目的となる株式の数 (株) |               |               |              | 当連結会計<br>年度末残高<br>(千円) |
|---------------|-------------------------|--------------------------|---------------------|---------------|---------------|--------------|------------------------|
|               |                         |                          | 前連結会<br>計年度末        | 当連結会<br>計年度増加 | 当連結会<br>計年度減少 | 当連結会<br>計年度末 |                        |
| 提出会社<br>(親会社) | ストック・オプション<br>としての新株予約権 | —                        | —                   | —             | —             | —            | —                      |
|               | 合計                      | —                        | —                   | —             | —             | —            | —                      |

## <金融商品関係>

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### (1) 金融商品に対する取組方針

当社及び連結子会社は、主として損害保険業を行っており、資産の運用においては、運用資金の性格を考慮し、「安全性」「収益性」「流動性」「公共性」を総合的に判断し、社会・公共の福祉に資するような資産運用を目指しております。

運用手段は、預貯金、公社債、公社債投信、株式、株式投信等とし、年度資産運用ガイドラインに規定する対応資産枠ごとに、同ガイドラインに準拠した資産運用を行っております。

#### (2) 金融商品の内容及びそのリスク

当社及び連結子会社の保有する金融商品は、預貯金、公社債、公社債投信、株式、株式投信等であり、下記のリスクに晒されております。

##### ①市場関連リスク

金利、株価といった市場の変動により、ポートフォリオの時価価値が下落し、損失を被るリスクを指します。

##### ②信用リスク

個別与信先の信用力の変化に伴い、ポートフォリオの時価価値が下落し、損失を被るリスクを指します。

#### (3) 金融商品に係るリスク管理体制

アニコム損害保険株式会社におけるリスク管理体制については、資産運用部門（財務部）、事務管理部門（経理部）、リスク管理部門（主管部は財務部、統括部はコンプライアンス・リスク管理部）を設置し、資産運用リスク管理規程に基づき、相互牽制機能が働く体制としております。

##### ①市場関連リスクの管理

有価証券のうち株式・債券等については時価を把握し、保有状況を継続的に見直しております。

##### ②信用リスクの管理

有価証券の発行体の信用リスクについては、銘柄ごとの格付情報、財務状況や時価等の把握を行うことで管理をしております。また、政策投資目的で保有している有価証券については、取引先の市場環境や業績状況等を定期的にモニタリングしております。

リスク管理も含めた資産運用状況については、取締役会、コンプライアンス・リスク管理委員会において月次で報告され、モニタリング結果の確認及びリスク管理態勢の整備を行っております。

#### (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算出された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表に含まれておりません（注）2. 参照）。

|             | 連結貸借対照表<br>計上額（百万円） | 時価<br>（百万円） | 差額<br>（百万円） |
|-------------|---------------------|-------------|-------------|
| (1) 現金及び預貯金 | 3,682               | 3,682       | 0           |
| (2) 有価証券    |                     |             |             |
| 満期保有目的の債券   | 3,602               | 3,619       | 16          |
| その他有価証券     | 3,413               | 3,413       | —           |
| 資 産 計       | 10,698              | 10,715      | 16          |

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法に関する事項

資産

### (1) 現金及び預貯金

満期のない預金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

満期のある預金については、個別の預金ごとに、新規に預金を行った場合に想定される預金金利で割り引いた現在価値を算定しております。

### (2) 有価証券

これらの時価について、株式については取引所の価格によっており、債券については日本証券業協会の公表する公社債店頭売買参考統計値表に表示される価格または取引金融機関から提示された価格等によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は、次のとおりであり、「(2) 有価証券」には含めておりません。

・非上場株式（連結貸借対照表計上額50百万円）

上記金融商品は、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積もることができないことから時価開示の対象とはしておりません。

< 1株当たり情報 >

|                        |           |
|------------------------|-----------|
| 1. 1株当たり純資産額           | 1,601円87銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益金額        | 103円20銭   |
| 3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 | 92円63銭    |

<その他の注記>

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(単位：百万円)

|                          |       |
|--------------------------|-------|
| 繰延税金資産                   |       |
| 繰越欠損金                    | 618   |
| 責任準備金                    | 304   |
| 支払備金                     | 45    |
| anicom (動物健康促進クラブ) 税務調整額 | 20    |
| 有価証券評価損                  | 26    |
| 未払事業税                    | 13    |
| 賞与引当金                    | 16    |
| 減価償却費超過額                 | 9     |
| 繰延資産超過額                  | 2     |
| その他                      | 10    |
| 繰延税金資産小計                 | 1,069 |
| 評価性引当額                   | △455  |
| 繰延税金資産合計                 | 613   |
| 繰延税金負債との相殺               | △426  |
| 繰延税金資産の純額                | 187   |
| 繰延税金負債                   |       |
| 保険業法第113条繰延資産            | △351  |
| 開業費                      | △63   |
| その他有価証券評価差額金             | △11   |
| その他                      | △0    |
| 繰延税金負債合計                 | △426  |
| 繰延税金資産との相殺               | 426   |
| 繰延税金負債の純額                | —     |

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

(単位：%)

|                     |       |
|---------------------|-------|
| 法定実効税率              | 40.7  |
| (調整)                |       |
| 交際費等永久に損金に算入されない項目  | 2.7   |
| 住民税均等割              | 3.3   |
| 繰越欠損金の減少による評価性引当金戻入 | △72.8 |
| 連結子会社との税率差異         | △2.2  |
| その他                 | △0.3  |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率   | △28.6 |

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションの内容

|                          | アニコム ホールディングス株式会社<br>第1回<br>ストック・オプション | アニコム ホールディングス株式会社<br>第2回<br>ストック・オプション | アニコム ホールディングス株式会社<br>第3回<br>ストック・オプション                                                                   | アニコム ホールディングス株式会社<br>第4回<br>ストック・オプション                                                                   |
|--------------------------|----------------------------------------|----------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 付与対象者の区分及び人数             | 当社取締役 1名<br>当社従業員 24名<br>外部協力者 1名      | 当社取締役 1名<br>外部協力者 3社                   | 当社取締役 1名<br>当社監査役 3名<br>当社子会社取締役 3名<br>当社従業員 18名<br>当社子会社従業員 97名<br>当社顧問 2名<br>当社子会社顧問 1名<br>外部協力者 1社・1名 | 当社取締役 4名<br>当社監査役 2名<br>当社子会社取締役 6名<br>当社子会社監査役 3名<br>当社従業員 3名<br>当社子会社従業員 187名<br>当社顧問 1名<br>当社子会社顧問 1名 |
| 株式の種類別のストック・オプションの付与数(注) | 普通株式 73,400株                           | 普通株式 600,000株                          | 普通株式 200,000株                                                                                            | 普通株式 131,400株                                                                                            |
| 付与日                      | 平成15年3月18日                             | 平成17年11月10日                            | 平成18年3月28日                                                                                               | 平成20年8月31日                                                                                               |
| 権利確定条件                   | 定め無し                                   | 定め無し                                   | 定め無し                                                                                                     | 定め無し                                                                                                     |
| 対象勤務期間                   | 定め無し                                   | 定め無し                                   | 定め無し                                                                                                     | 定め無し                                                                                                     |
| 権利行使期間                   | 平成17年4月1日から<br>平成25年3月10日まで            | 平成19年4月30日から<br>平成27年3月31日まで           | 平成19年4月30日から<br>平成27年3月31日まで                                                                             | 平成22年9月1日から<br>平成30年8月30日まで                                                                              |

(注) 付与後に実施された株式分割を考慮した上で、株式数に換算して記載しております。

## 2. ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

### (1) ストック・オプションの数

|          | アニコム ホール<br>ディングス株式会社<br>第1回<br>ストック・オプション | アニコム ホール<br>ディングス株式会社<br>第2回<br>ストック・オプション | アニコム ホール<br>ディングス株式会社<br>第3回<br>ストック・オプション | アニコム ホール<br>ディングス株式会社<br>第4回<br>ストック・オプション |
|----------|--------------------------------------------|--------------------------------------------|--------------------------------------------|--------------------------------------------|
| 権利確定前(株) |                                            |                                            |                                            |                                            |
| 前連結会計年度末 | —                                          | —                                          | —                                          | 119,000                                    |
| 付与       | —                                          | —                                          | —                                          | —                                          |
| 失効       | —                                          | —                                          | —                                          | —                                          |
| 権利確定     | —                                          | —                                          | —                                          | 119,000                                    |
| 未確定残     | —                                          | —                                          | —                                          | —                                          |
| 権利確定後(株) |                                            |                                            |                                            |                                            |
| 前連結会計年度末 | 61,200                                     | 442,600                                    | 138,000                                    | —                                          |
| 権利確定     | —                                          | —                                          | —                                          | 119,000                                    |
| 権利行使     | 4,400                                      | 36,000                                     | 18,600                                     | —                                          |
| 失効       | —                                          | —                                          | 200                                        | 5,600                                      |
| 未行使残     | 56,800                                     | 406,600                                    | 119,200                                    | 113,400                                    |

(注) 付与後に実施された株式分割を考慮した上で、株式数に換算して記載しております。

### (2) 単価情報

|                   | アニコム ホール<br>ディングス株式会社<br>第1回<br>ストック・オプション | アニコム ホール<br>ディングス株式会社<br>第2回<br>ストック・オプション | アニコム ホール<br>ディングス株式会社<br>第3回<br>ストック・オプション | アニコム ホール<br>ディングス株式会社<br>第4回<br>ストック・オプション |
|-------------------|--------------------------------------------|--------------------------------------------|--------------------------------------------|--------------------------------------------|
| 権利行使価格(円)         | 500                                        | 750                                        | 750                                        | 4,000                                      |
| 行使時平均株価(円)        | 3,036                                      | 2,986                                      | 3,019                                      | —                                          |
| 付与日における公正な評価単価(円) | —                                          | —                                          | —                                          | —                                          |

(注) 付与後に実施された株式分割を考慮した上で、権利行使価格を調整しております。

## 3. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。



## 平成22年度（平成23年3月31日現在）貸借対照表

（単位：百万円）

| 科 目         | 金 額   | 科 目               | 金 額   |
|-------------|-------|-------------------|-------|
| （ 資 産 の 部 ） |       | （ 負 債 の 部 ）       |       |
| 流 動 資 産     | 1,928 | 流 動 負 債           | 32    |
| 現金及び預金      | 828   | リース債務             | 0     |
| 売掛金         | 42    | 未払金               | 21    |
| 有価証券        | 959   | 未払法人税等            | 4     |
| 前払費用        | 12    | 預り金               | 3     |
| 繰延税金資産      | 59    | 賞与引当金             | 1     |
| その他         | 26    | その他               | 0     |
| 固 定 資 産     | 5,939 | 負 債 合 計           | 32    |
| 有形固定資産      | 53    | （ 純 資 産 の 部 ）     |       |
| 建物          | 26    | 株 主 資 本           | 7,837 |
| 工具、器具及び備品   | 26    | 資 本 金             | 4,178 |
| 無形固定資産      | 7     | 資 本 剰 余 金         | 4,068 |
| ソフトウェア      | 6     | 資本準備金             | 4,068 |
| リース資産       | 0     | 利 益 剰 余 金         | △409  |
| 投資その他の資産    | 5,878 | その他利益剰余金          | △409  |
| 関係会社株式      | 5,834 | 繰越利益剰余金           | △409  |
| 敷金          | 44    | 自 己 株 式           | △0    |
|             |       | 評価・換算差額等          | △0    |
|             |       | その他有価証券評価差額金      | △0    |
|             |       | 純 資 産 合 計         | 7,836 |
| 資 産 合 計     | 7,868 | 負 債 及 び 純 資 産 合 計 | 7,868 |

## 平成22年度（平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで）損益計算書

(単位：百万円)

| 科 目                 | 金 額 |     |
|---------------------|-----|-----|
| 営業収益                |     |     |
| 経営管理料               |     | 568 |
| 営業費用                |     |     |
| 販売費及び一般管理費          |     | 424 |
| 営業利益                |     | 144 |
| 営業外収益               |     |     |
| 受取利息                | 1   |     |
| 有価証券利息              | 6   |     |
| その他                 | 0   | 9   |
| 営業外費用               |     |     |
| 支払利息                | 0   |     |
| 有価証券売却損             | 2   | 2   |
| 経常利益                |     | 150 |
| 特別損失                |     |     |
| 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 | 1   |     |
| 固定資産除却損             | 0   | 1   |
| 税引前当期純利益            |     | 148 |
| 法人税、住民税及び事業税        |     | 1   |
| 法人税等調整額             |     | △38 |
| 法人税等合計              |     | △37 |
| 当期純利益               |     | 186 |

# 平成22年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

## 株主資本

|     |       |       |       |
|-----|-------|-------|-------|
| 資本金 | 前期末残高 |       | 4,157 |
|     | 当期変動額 | 新株の発行 | 21    |
|     | 当期末残高 |       | 4,178 |

## 資本剰余金

|       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| 資本準備金 | 前期末残高 |       | 4,046 |
|       | 当期変動額 | 新株の発行 | 21    |
|       | 当期末残高 |       | 4,068 |

## 資本剰余金合計

|       |       |       |
|-------|-------|-------|
| 前期末残高 |       | 4,046 |
| 当期変動額 | 新株の発行 | 21    |
| 当期末残高 |       | 4,068 |

## 利益剰余金

### その他利益剰余金

|         |       |       |      |
|---------|-------|-------|------|
| 繰越利益剰余金 | 前期末残高 |       | △596 |
|         | 当期変動額 | 当期純利益 | 186  |
|         | 当期末残高 |       | △409 |

## 利益剰余金合計

|       |       |      |
|-------|-------|------|
| 前期末残高 |       | △596 |
| 当期変動額 | 当期純利益 | 186  |
| 当期末残高 |       | △409 |

## 自己株式

|       |         |    |
|-------|---------|----|
| 前期末残高 |         | —  |
| 当期変動額 | 自己株式の取得 | △0 |
| 当期末残高 |         | △0 |

## 株主資本合計

|       |         |       |
|-------|---------|-------|
| 前期末残高 |         | 7,607 |
| 当期変動額 | 新株の発行   | 43    |
|       | 当期純利益   | 186   |
|       | 自己株式の取得 | △0    |
| 当期末残高 |         | 7,837 |

評価・換算差額等

|              |       |                        |       |
|--------------|-------|------------------------|-------|
| その他有価証券評価差額金 | 前期末残高 |                        | —     |
|              | 当期変動額 | 株主資本以外項目の当期<br>変動額（純額） | △0    |
|              | 当期末残高 |                        | △0    |
| 評価・換算差額等合計   | 前期末残高 |                        | —     |
|              | 当期変動額 | 株主資本以外項目の当期<br>変動額（純額） | △0    |
|              | 当期末残高 |                        | △0    |
| 純資産合計        | 前期末残高 |                        | 7,607 |
|              | 当期変動額 | 新株の発行                  | 43    |
|              |       | 当期純利益                  | 186   |
|              |       | 自己株式の取得                | △0    |
|              | 当期末残高 | 株主資本以外項目の当期<br>変動額（純額） | △0    |
|              |       |                        | 7,836 |

## 個別注記表

(金額の記載)

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

### 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

- |                           |                                                                               |
|---------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 満期保有目的の債券             | 移動平均法に基づく償却原価法によっております。                                                       |
| (2) 関係会社株式                | 移動平均法に基づく原価法によっております。                                                         |
| (3) その他有価証券<br>(時価のあるもの)  | 決算日の市場価格等に基づく時価法によっております。<br>なお、評価差額は全部純資産直入法により処理し、また、売却原価の算定は移動平均法によっております。 |
| (時価を把握することが極めて困難と認められるもの) | 移動平均法に基づく原価法によっております。                                                         |

### 2. 固定資産の減価償却の方法

- |                          |                                                                           |
|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| (1) 有形固定資産<br>(リース資産を除く) | 定率法によっております。<br>なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。<br>建物 : 5～15年<br>工具、器具及び備品 : 4～15年 |
| (2) 無形固定資産<br>(リース資産を除く) | 定額法によっております。<br>なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。      |
| (3) リース資産                | 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。        |

### 3. 引当金の計上基準

#### 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額の当事業年度の負担額を計上しております。

### 4. 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

なお、資産に係る控除対象外消費税等はその他(長期前払費用)に計上し、5年間で均等償却を行っております。

(重要な会計方針の変更)

当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

この結果、従来の方法によった場合に比べ、経常利益は0百万円減少し、税引前当期純利益は1百万円減少しております。

(貸借対照表に関する注記)

|                   |         |
|-------------------|---------|
| 1. 有形固定資産の減価償却累計額 |         |
| (1) 建物            | 23百万円   |
| (2) 工具、器具及び備品     | 56百万円   |
| 2. 関係会社に対する金銭債権債務 |         |
| (1) 短期金銭債権        | 66百万円   |
| (うち売掛金)           | (42百万円) |
| (うち未収入金)          | (23百万円) |
| (2) 短期金銭債務        | 0百万円    |
| (うち未払金)           | (0百万円)  |

(損益計算書に関する注記)

|                |        |
|----------------|--------|
| 1. 関係会社との取引高   |        |
| 関係会社からの経営管理料   | 568百万円 |
| 2. 特別損失の内訳     |        |
| (1) 固定資産除却損の内訳 |        |
| 工具、器具及び備品      | 0百万円   |
| ソフトウェア         | 0百万円   |

(株主資本等変動計算書に関する注記)

|          | 前事業年度末<br>株式数 (株) | 当事業年度増加<br>株式数 (株) | 当事業年度減少<br>株式数 (株) | 当事業年度末株<br>式数 (株) |
|----------|-------------------|--------------------|--------------------|-------------------|
| 自己株式     |                   |                    |                    |                   |
| 普通株式 (注) | —                 | 49                 | —                  | 49                |
| 合計       | —                 | 49                 | —                  | 49                |

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加49株は、単元未満株式の買取による増加であります。

(税効果会計に関する注記)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

|           |         |
|-----------|---------|
| 繰延税金資産    |         |
| 繰越欠損金     | 148百万円  |
| 減価償却費超過額  | 2百万円    |
| 未払事業税     | 1百万円    |
| 賞与引当金     | 0百万円    |
| その他       | 22百万円   |
| 繰延税金資産小計  | 175百万円  |
| 評価性引当額    | △115百万円 |
| 繰延税金資産合計  | 59百万円   |
| 繰延税金負債    | －百万円    |
| 繰延税金負債合計  | －百万円    |
| 繰延税金資産の純額 | 59百万円   |

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

(単位：%)

|                     |       |
|---------------------|-------|
| 法定実効税率              | 40.7  |
| (調整)                |       |
| 交際費等永久に損金に算入されない項目  | 0.5   |
| 住民税均等割              | 0.8   |
| 繰越欠損金の減少による評価性引当金戻入 | △66.9 |
| その他                 | △0.3  |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率   | △25.2 |

(注) 税務当局の指導により「anicom (動物健康促進クラブ)」を含めて法人税の申告を行っているため、上記の金額及び率は「anicom (動物健康促進クラブ)」の税務調整が含まれております。

(リースにより使用する固定資産に関する注記)

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引(借主側)

1. リース資産の内容

無形固定資産

ソフトウェア

2. リース資産の減価償却方法

個別注記表「(重要な会計方針に係る事項に関する注記) 2. 固定資産の減価償却の方法(3) リース資産」に記載のとおりであります。

(関連当事者との取引に関する注記)

子会社及び関連会社等

| 属性  | 会社等の名称          | 議決権等の所有割合 | 関連当事者との関係       | 取引内容           | 取引金額(百万円) | 科目  | 期末残高(百万円) |
|-----|-----------------|-----------|-----------------|----------------|-----------|-----|-----------|
| 子会社 | アニコム損害保険株式会社    | 直接 100%   | 経営指導<br>役員兼務 4名 | 経営管理料<br>(注) 2 | 557       | 売掛金 | 41        |
| 子会社 | アニコム パフェ株式会社    | 直接 100%   | 経営指導<br>役員兼務 4名 | 経営管理料<br>(注) 2 | 8         | 未払金 | 0         |
| 子会社 | アニコム フロンティア株式会社 | 直接 100%   | 経営指導<br>役員兼務 4名 | 経営管理料<br>(注) 2 | 1         | 売掛金 | 0         |

(注) 1. 取引金額は税抜き、期末残高は税込みで表示しております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

当社が受託する経営指導及び業務支援内容等を勘案した上で、子会社の事業規模等により決定しております。

(1株当たり情報に関する注記)

|                        |           |
|------------------------|-----------|
| 1. 1株当たり純資産額           | 1,905円17銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益金額        | 45円65銭    |
| 3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 | 40円98銭    |

(重要な後発事象に関する注記)

該当事項はありません。



# 連結計算書類に係る会計監査人監査報告書謄本

## 独立監査人の監査報告書

平成23年5月20日

アニコム ホールディングス株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 小澤裕治<sup>㊞</sup>  
業務執行社員  
指定有限責任社員 公認会計士 石井広幸<sup>㊞</sup>  
業務執行社員

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、アニコム ホールディングス株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。この連結計算書類の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アニコム ホールディングス株式会社及び連結子会社から成る企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 計算書類に係る会計監査人監査報告書謄本

## 独立監査人の監査報告書

平成23年5月20日

アニコム ホールディングス株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 小澤裕治<sup>㊞</sup>  
業務執行社員  
指定有限責任社員 公認会計士 石井広幸<sup>㊞</sup>  
業務執行社員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、アニコム ホールディングス株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第11期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。この計算書類及びその附属明細書の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 監査役会監査報告書謄本

### 監 査 報 告 書

当監査役会は、平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第11期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の結果、監査役全員の一致した意見として、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

監査役会は、監査基本方針、監査計画等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査基本方針、監査計画等に従い、取締役、内部監査室その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。また、取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）の状況を検証いたしました。なお、財務報告に係る内部統制については、取締役及び新日本有限責任監査法人から当該内部統制の評価及び監査の状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。子会社については、子会社の取締役、監査役及び内部監査室その他の使用人等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成23年 5月23日

アニコム ホールディングス株式会社 監査役会

常勤監査役 猪 俣 吉 彦 ㊟

監 査 役 岩 本 康 一 郎 ㊟

監 査 役 塩 川 伸 明 ㊟

監 査 役 植 田 稔 ㊟

(注) 監査役 猪俣吉彦、岩本康一郎及び塩川伸明は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

以 上

## 株主総会参考書類

### 議案 取締役4名選任の件

取締役全員（4名）は本定時株主総会終結の時をもって任期満了となりますので、取締役4名の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は、次のとおりであります。

| 候補者番号 | 氏名<br>(生年月日)           | 略歴、地位、担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                              | 候補者の有する<br>当社の株式数 |
|-------|------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| 1     | 小森 伸 昭<br>(昭和44年5月2日)  | 平成4年4月 東京海上火災保険株式会社（現東京海上日動火災保険株式会社）入社<br>平成12年7月 当社設立 代表取締役社長（現職）<br>（重要な兼職の状況）<br>アニコム損害保険株式会社 代表取締役社長<br>アニコム パフェ株式会社 取締役<br>アニコム フロンティア株式会社 取締役                                 | 447,100株          |
| 2     | 百瀬 由美子<br>(昭和42年9月8日)  | 平成3年4月 東京海上火災保険株式会社（現東京海上日動火災保険株式会社）入社<br>平成12年7月 当社入社<br>平成15年5月 当社 取締役<br>平成17年5月 当社 常務取締役（現職）<br>（重要な兼職の状況）<br>アニコム損害保険株式会社 常務取締役                                                | 37,100株           |
| 3     | 須田 一 夫<br>(昭和24年4月21日) | 昭和49年4月 東京海上火災保険株式会社（現東京海上日動火災保険株式会社）入社<br>平成17年7月 Tokio Marine Seguradora社 取締役副社長<br>平成21年8月 アニコム損害保険株式会社 入社<br>平成22年3月 当社 執行役員（現職）                                                | —                 |
| 4     | 岩崎 俊 男<br>(昭和21年7月9日)  | 昭和45年5月 株式会社三菱銀行（現株式会社三菱東京UFJ銀行）入行<br>平成11年2月 ダイヤモンドキャピタル株式会社（現三菱UFJキャピタル株式会社）専務取締役<br>平成19年6月 当社 取締役（社外取締役、現職）<br>（重要な兼職の状況）<br>セルフリースイェンス株式会社 取締役（社外取締役）<br>アーキタイプ株式会社 取締役（社外取締役） | —                 |

- (注) 1. 各取締役候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 候補者 岩崎俊男氏は、社外取締役候補者であり、当社の社外取締役としての在任期間は、本定時株主総会終結の時をもって4年になります。
3. 社外取締役候補者の選任理由及び社外取締役との責任限定契約について
- (1) 社外取締役候補者とした理由について
- 候補者 岩崎俊男氏につきましては、三菱UFJキャピタル株式会社の専務取締役として直接会社経営に関与された経験により培われた専門的な知識・経験等を当社の経営に生かしていただくため、社外取締役として選任をお願いするものであります。
- (2) 社外取締役との責任限定契約について
- 当社は、社外取締役候補者 岩崎俊男氏との間で責任限定契約を締結しており、同氏の再任について本定時株主総会でのご承認をいただき次第、同氏との当該責任限定契約を継続いたします。
- その契約内容の概要は次のとおりであります。
- ・社外取締役が任務を怠ったことによって当社に損害賠償責任を負う場合は、会社法第425条第1項の最低責任限度額を限度として、その責任を負う。
  - ・上記の責任限定が認められるのは、社外取締役がその責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限るものとする。

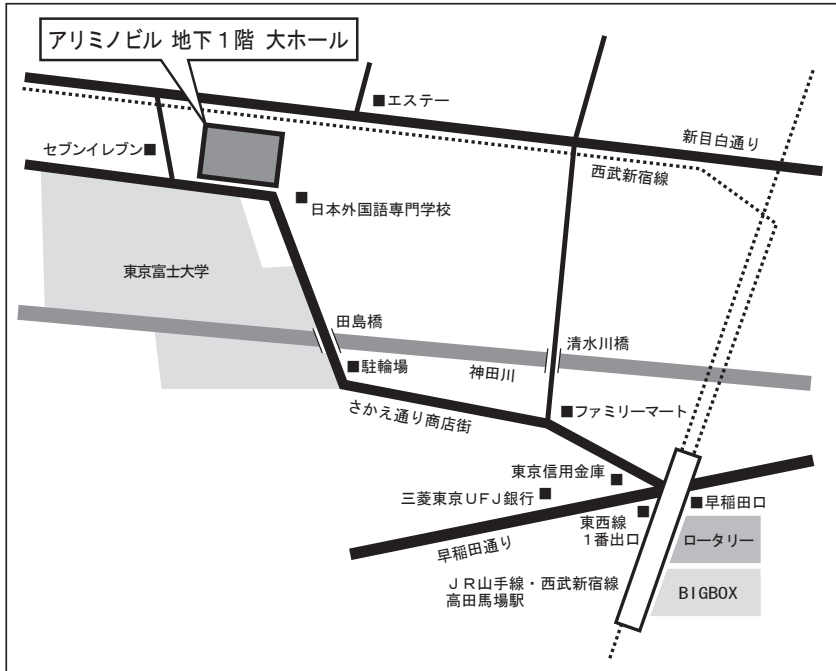
以上



# 定時株主総会

## 会場ご案内

会場 東京都新宿区下落合一丁目5番22号  
アリミノビル地下1階 大ホール  
郵便番号 161-0033  
電 話 03 (5348) 3911



- J R ・ 西武新宿線 高田馬場駅「早稲田口」より徒歩5分
- 東京メトロ東西線 高田馬場駅「1番出口」より徒歩5分

※近隣に駐車場が少ないため、お車でのご来場はご遠慮願います。